

専門学校活用事例

総合電子専門学校

自分と向き合った就職活動を促す

就職情報センター
室長

坂田 誠氏

**フィードバックは
ていねいに**

坂田 1年生の秋、最初の就職方

総合電子専門学校は、少人数教育により学生と教職員の距離が近い点
が特色。学生についての情報を教職
員間で共有し、適切なサポートがで
きる体制をとっています。昨年度初
めてGATBを導入しました。



●学校法人湘南ふれあい学園 総合電子専門学校

神奈川県相模原市南区上鶴間本町3-18-27

情報デザイン科（コンピュータグラフィック、グラフィックデザイン）、情報システム科（ゲームプログラミング、システム・Web開発、ネットワーク、オペレータ・ヘルプデスク）、医療マネジメント科（医療秘書・医療情報）

「（言語）、デザイン系の学生はS（空間判断）やP（形態知覚）の数値があまりに低いと、苦手だということに気づかせて、このままだとかかなり苦戦する、という話をする。あるいは、少し足りないのだから、どついう会社なら行けそうなのか、仕事の内容でもこつちだと難しいかもしれないけど、こつちのほうならやれるかな、とか。」

坂田 この学生には強い言い方でも大丈夫だけれど、この学生だと落ち込んでしまうということもある。

「社がいいのか」という話ができるんですけれども、逆の場合、「こういう結果が出ているけれども、それではどうすればいいか」ということになります。

「ビジネス系はG（知的）とかV（言語）、デザイン系の学生はS（空間判断）やP（形態知覚）の数値があまりに低いと、苦手だということに気づかせて、このままだとかかなり苦戦する、という話をする。あるいは、少し足りないのだから、どついう会社なら行けそうなのか、仕事の内容でもこつちだと難しいかもしれないけど、こつちのほうならやれるかな、とか。」

武田 結果の見方を勘違いされてしまうと恐いので、そのフォローが大事です。自分の行きたい方向と、適性能が合っている学生に対しては、「どついう会社

「（言語）、デザイン系の学生はS（空間判断）やP（形態知覚）の数値があまりに低いと、苦手だということに気づかせて、このままだとかかなり苦戦する、という話をする。あるいは、少し足りないのだから、どついう会社なら行けそうなのか、仕事の内容でもこつちだと難しいかもしれないけど、こつちのほうならやれるかな、とか。」

坂田 本校では、教員が学生一人ひとりのことを熟知しています。1学年70〜80人くらいの少人数教育の中で、「ダメな子でも立派にする学校」を目指しています。い

「（言語）、デザイン系の学生はS（空間判断）やP（形態知覚）の数値があまりに低いと、苦手だということに気づかせて、このままだとかかなり苦戦する、という話をする。あるいは、少し足りないのだから、どついう会社なら行けそうなのか、仕事の内容でもこつちだと難しいかもしれないけど、こつちのほうならやれるかな、とか。」

武田 「職業適性の要素はいろいろあるけれども、これはパーソナリティではなくて能力なんだよ」と説明しやすいですし、結果のフィードバックの時に、プロフィールのグラフのラインもわかりやすいです。こついう職業の時はこれだけ必要、こついうことを伝えます。こついう能力が苦手じゃないかな、こついうことも話せる。

坂田 GATBの良さという点、信頼性でしょうね。結果を見てみるとやはり納得できる。今秋にまた実施する予定でおります。

武田 「職業適性の要素はいろいろあるけれども、これはパーソナリティではなくて能力なんだよ」と説明しやすいですし、結果のフィードバックの時に、プロフィールのグラフのラインもわかりやすいです。こついう職業の時はこれだけ必要、こついうことを伝えます。こついう能力が苦手じゃないかな、こついうことも話せる。

GATBの利点

「（言語）、デザイン系の学生はS（空間判断）やP（形態知覚）の数値があまりに低いと、苦手だということに気づかせて、このままだとかかなり苦戦する、という話をする。あるいは、少し足りないのだから、どついう会社なら行けそうなのか、仕事の内容でもこつちだと難しいかもしれないけど、こつちのほうならやれるかな、とか。」

武田 結果の見方を勘違いされてしまうと恐いので、そのフォローが大事です。自分の行きたい方向と、適性能が合っている学生に対しては、「どついう会社



キャリアアドバイザー

武田智美氏

「（言語）、デザイン系の学生はS（空間判断）やP（形態知覚）の数値があまりに低いと、苦手だということに気づかせて、このままだとかかなり苦戦する、という話をする。あるいは、少し足りないのだから、どついう会社なら行けそうなのか、仕事の内容でもこつちだと難しいかもしれないけど、こつちのほうならやれるかな、とか。」

武田 1年生の最初に言つんです。「学生時代に何も打ち込んだことがないとESにも自己PRが書けない。こつで打ち込むものを作るんです」と。書けるようになる、その姿勢を促していくことが一番重要ではないかと思つていますね。

坂田 今年はまず面談をやつて、GATBをやつて、その後また面談をしたんですが、こつ数年の学生に比べると自分とちゃんと向き合つていたと感じます。GATBのおかげもあつたのか、自分を見据えたいうで企業研究をして、自分はこの会社でちゃんと働いていけるのかを調べているなと思つました。

坂田 今年は例年に比べて内定が早いんですね。学生のフットワークがよくなつて、相談にもよく来るようになつています。相談の仕方やタイミングもわかっている。GATBがきっかけだったのかもしれないませんが、自分の進路もそれだけ明確になる。それが就職率にも結びついている、こついう傾向が生まれていますね。